



古文書紙上公開 飯野文書解説

猪俣金五郎

二四伊賀盛光(九)終始北朝方に属して、上三三... 延元五年から同三年にかけて、南朝の名將義士は相ついでに戦陣にたおれた。北畠親家も、楠正成に後れること二年、新田義貞に先立つこと三ヶ月、攝津國石津の戦に敗死した。超えて興國元年、親家の弟頼信は、兄の後を受けて、鎮守府將軍として赴任したのである。頼信は陸奥の國府にも着く居たとはいはれるが、大部分は田村部津輝にいて、頼朝の南朝方を指揮していたとして新波、吉良、石橋等北朝方の諸氏と戦を交へたのであるが、形勢はだいたい北朝方に有利であつた。盛光は

衣料品配給店決る

市郡下で百十店が當選

- 衣料品配給店の選挙結果は三十月十日地方事務所に於て判明した。候補店百六十三軒の内當選率千二百以上百十軒が衣料品配給店として認められることになった。結果左の如し
- 當選店舗
三井洋行(中)三、三、九
七富田屋(草野)四、〇、四
九出子武(岩崎)一、七、〇
九出子武(岩崎)一、七、〇
九出子武(岩崎)一、七、〇
... (many more names and numbers)

である。當時足利氏の内争があり、頼氏は南朝に降つて、弟直義を嫁かんと計つていた。此の書状に「正平」といふ南朝の年號の記されて、理由は、恐らく其の爲である。しかも此の附月、直義は鎌倉で殺されたのである。此の短、書状が、當時の複雑怪奇な國內情勢を示すのは興味深い。猶ほ此の書状は、縦四寸横三寸の小片であるが、使者が髪の間につひこめて来たものであつて、「も」といふ文一と好はれる。他に同種類のものもあつて、一通あつて、金山國氏を征伐する爲の軍勢催促状である。又書状に、軍忠状等も種々あるが、前に掲げたものと同種のものである。紙面の都合上これらの解説は他日機會を得た場合に譲る事にして、次に年貢に關する陳情の注進状を掲げる。

京進仕由事
抑任御奉書百官當任方守先例致催促之處當國者建武年中以來依凶徒蜂起連々合戦之間爲下地荒廢不食所納之條無異就中去年(貞和三年)爲難仙陸田以下凶徒御對治依御發向令供奉疲勞至極之間多年分難其へん由地頭等所たん也申雖然先就御奉書以代且百貫交來十一月中旬京進仕候以此百貫有可御披露候事謹言
貞和四年十月廿七日
左衛門尉盛光
進上御奉行所
陸奥國好勝庄、御年貢帳の催促の結果として納めるのである。此の書状は勿論寫しであるが、此の注進状に之へに任せ、恐らく奥州書頭の出仕を思はれる書状の爲である。

釜屋商店
「モロツコ」のあの砂漠を渡る風には涙が凧に人なかつた。唯ひたひたききながら、原野から新しく成長した新緑の葉を切るに當つて、今一度沙漠の彼方に想のオアシスを求めて去つたアミイシヨリイを想ひ出して載きた。

- 六坂本(中)一、〇、〇
五日曹赤井炭礦(岩崎)
赤井一、七、六、六、三、三、三
赤井(中)一、〇、〇、〇、〇、〇
赤井(中)一、〇、〇、〇、〇、〇
... (many more names and numbers)

モロツコ
只今上映中
毎日開映正午
湯治薬湯
早朝より
平市山楽園
高價買入
中央會館

ハサミ
カミソリ
直龍軒
平市南町五〇